

カボチャの 作り方



性質 強い光と高温を好みます。
質 生育適温は20～30℃で、15℃以下では生育が弱まります。

●栽培のポイント 湿り気の強い畑では、育ちが悪くなる。栽培は水はけのよい畑で、植え替えると根が傷みやすい。タネは直接畑にまく。つるを長く伸ばすので、株間を十分とる。

STEP
1

畑の準備



タネをまく1週間前に、畑に深さ30cm、径40cmの穴を1m間隔に掘り、植え穴ごとに腐葉土7～8つかみと油粕3～4握りを入れ、土をかぶせる。

STEP
2

タネまき



ツツジの花の咲く頃、穴の上にタネを間隔をあけて2～3粒ずつまき、土を2cmほどかぶせる。水やりは必要ない。

STEP
3

間引き



1週間から10日で発芽し、子葉(双葉)を開く。子葉には初期の生長のための養分が蓄えられているから、本葉が顔を見せたら子葉の欠けたものから除き、1か所1株こ。

STEP
4

肥料



本葉が3～4枚伸びたら、株のまわりに油粕を1株当たり2握りほど施す。その後は実がつく頃にもう1回、同量与える。

STEP
5

敷き草



つるが伸びだしたら、草を刈り取って、つるの下に敷きつめる。ワラがあれば、ワラを敷いてもよい。

STEP
6

受粉



カボチャなどのウリ類は雌花と雄花が別々に咲く。ハチやアブが雄花の花粉を雌花のめしべにつけてくれるので、普通の畑(露地)では人工受粉はしなくてよい。ハチなどがいないときは、午前中に雄花の花粉を雌花の柱頭につけて受粉させる方法もある。そのまま育てていくと、つるは3m以上伸び、実は2個以上つく。

STEP
7

収穫



通常、第1番目の花は実をつけない。つるが充実して咲く2番目の花が、最初の実になる。実が爪がたちにくくなったら、収穫。1株から2果はとれる。